

各関係機関の長  
各病害虫防除員 殿

宮崎県病害虫防除・肥料検査センター所長

平成28年度病害虫発生予察注意報第4号について

平成28年度病害虫発生予察注意報第4号を発表したので送付します。

## 平成28年度病害虫発生予察注意報第4号

平成29年1月30日

宮 崎 県

病害虫名 葉かび病、すすかび病

作物名 冬春トマト（ミニトマトを含む）

1 発生地域 県下全域

2 発生量 葉かび病 多  
すすかび病 前年、前々年より多い

### 3 注意報の根拠

#### 1) 葉かび病

1月中旬の巡回調査における発生面積率は30.0%（前年10.0%、平年8.9%）、発病葉率は9.4%（前年2.0%、平年0.7%）で、いずれも平年に比べて多の発生であった（図1, 2）。

発生面積率、発病葉率ともに過去10年同時期で最も高くなっている。

#### 2) すすかび病

1月中旬の巡回調査における発生面積率は30.0%（前年20.0%、前々年20.0%）、発病葉率は6.4%（前年4.8%、前々年2.0%）であった（図3, 4）。

発生面積率、発病葉率ともに過去10年同時期で最も高くなっている。

3) 向こう1か月の気象予報では、気温は高く、降水量は少ない予報であるが、曇雨天日が多くなると、施設内の湿度が高くなり、病害の発生に好適な条件となる可能性がある（鹿児島地方気象台1月26日発表1ヶ月予報）。

4) 平成28年1月30日付で防除情報第7号を発表し、すすかび病の防除を呼びかけたが、その後も平年より発生が多い状況で推移している。

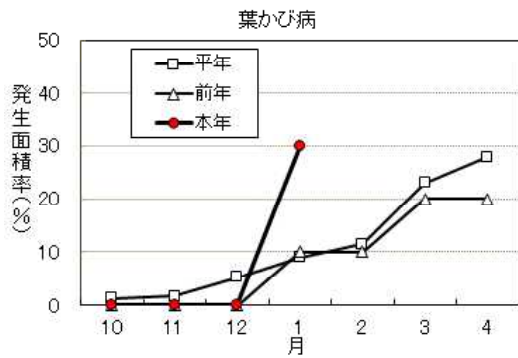


図1 巡回調査における発生面積率の推移

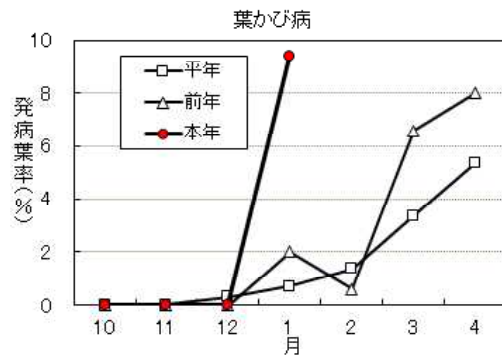


図2 巡回調査における発病葉率の推移

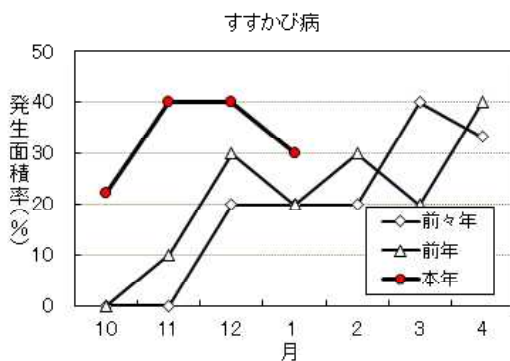


図3 巡回調査における発生面積率の推移

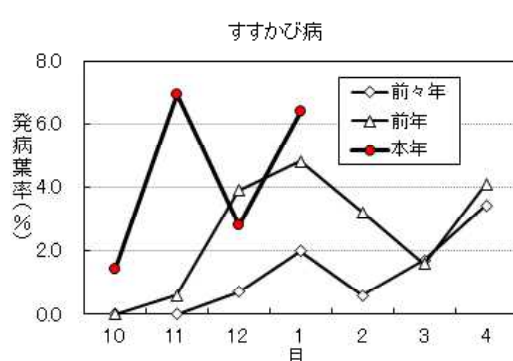


図4 巡回調査における発病葉率の推移

#### 4 防除上の注意

- 1) 両病害とも密植や過繁茂により、施設内の湿度が高くなると発病しやすいので、換気を行うとともに、施設内が高湿度にならないように管理を徹底する。
- 2) 厳寒期は施設内保温のために、密閉時間が長くなるので、加温機で送風を行うなどして発病しにくい環境作りに努める。
- 3) 発病葉は感染源になるため、生育に支障がない限りできるだけ摘葉し、すみやかにほ場外へ持ち出し適正に処理する。
- 4) 多発してからでは防除効果が劣るので、予防散布に重点をおく。発病がみられたら直ちに薬剤散布を行う。
- 5) 今後は、灰色かび病や疫病等の病害の発生も多く見られるようになるので、日頃からほ場をよく観察し、施設内管理を徹底するとともに早期発見・防除に努める。

#### 5 その他

その他詳細については、西臼杵支庁・各農林振興局（農業改良普及センター）、総合農業試験場生物環境部、病害虫防除・肥料検査センター等関係機関に照会してください。

##### 《連絡先》

宮崎県総合農業試験場病害虫防除・肥料検査課  
 （病害虫防除・肥料検査センター） 久野  
 TEL : 0985-73-6670 FAX : 0985-73-2127  
 E-mail : byogaichu-hiryo@pref.miyazaki.lg.jp